Round 2　SoyaLabo10ミーティングの意見紹介

～ みんなで考える魅力的な宗谷の地域づくり ～

スクリーンに『SoyaLabo10ミーティング』において提出された意見を表示します。 この後の、パネルディスカッションでパネリスト方から意見が紹介されます。

・共感する意見、 ・気になった意見

・魅力的な宗谷の地域づくりに必要なこと　等

Slidoから自由にご意見を投稿ください！

いいね、と思う投稿にはグッドボタン！

ディスカッション後に５分間の記述時間を用意しますが投稿は今から受け付けますので思いついたタイミングで投稿をお願いします。

皆さまからのご意見も交えながら、一緒に宗谷地域の未来について考えていきたいと思います。

◆Slido（ｽﾗｲﾄﾞｰ）による投稿方法はこちら◆

●アクセス方法

QRコード読み取り、または、「Slido」に直接アクセスし「アクセスコード」を入力

QRコードは
シンポジウム
当日に共有予定

アクセスコード
『 当日共有予定 』

●投稿方法

上部の「Ｑ＆Ａ」（「投票」ではなく）を選択して自由に意見を投稿してください。



SoyaLabo10ミーティング
Aグループ参加者



ＦＭわっぴー 取締役局長
稚内地区吹奏楽連盟理事長

杉谷（すぎや）　賢俊（けんしゅん）

札幌市出身。2002年の入社以来、主に音楽・情報番組を担当するほか、北海道防災マスターとして防災番組や防災ラジオも担当し、2020年より取締役局長に就任。その他稚内地区吹奏楽連盟理事長なども務める。



株式会社レラクルーズ代表
（訪問看護ステーションはれ）

髙橋（たかはし）　愛（あい）

稚内市出身。稚内高校衛生看護科・専攻科を卒業後、内科や精神科、サ高住での勤務経験を経て、市内で訪問看護ステーションを開設。
上記業務のほかにデザイン業（SIKI DESIGN）の一環で育英館大学の学生とオリジナルの紙袋やトートバッグ、Tシャツを制作。地域の魅力を再発見できる取組を「形」に残す取組を進めている。



稚内信用金庫
営業戦略センター 副センター長

山田（やまだ）　宜幸（よしゆき）

紋別市出身。地域金融機関の立場から、地域企業の経営支援と地域活性化に取り組む。事業者、行政、支援機関をつなぎ、販路開拓や事業づくり、各種プロジェクトを企画・推進。
現場の声と対話を大切に、地域課題を新たな可能性へと変え、立場を越えた共創によって、持続可能な地域の未来を形にすることを目指している。



ユーラスエナジーＨＤ地域創生推進部 主任　**山﨑（やまさき）　貴弘（たかひろ）**

大分県出身。北海道在住9年目（うち稚内4年目）。
建設コンサルタント会社にて交通・都市計画業務に従事したのち、現職に中途入社。
2023年から道北エリア担当として地域活動に参画しつつ、「会社としてどのように地域社会の課題解決や発展に貢献できるか」をテーマに新規取組等の立ち上げを推進。

R8_SoyaLabo10ミーティング意見一覧《Aグループ》

①若者流出は宗谷地域に限らず全国の地方部も同じ状況、買い物が不便なのは宗谷地域だけではなく北海道の地方部の大部分もそうではないか

②高校生の時は自分がやりたいことは考えていなかったかも・・・

③地元に働きたい仕事がないというが、地元の仕事の発信も足りないのでは企業説明会だけでは伝わりにくい部分もあるのではないか

④若い時は都市部に出たいと思ったが、今は地元のゆったりとした感じがいい

⑤進学等で一度は地元を出ていくのは大前提、如何に戻ってきてもらうか

⑥アンケート結果を悲観的とらえる必要はない

⑦都市部に一度就職したが、稚内に医療が充実できればと思って会社を立ち上げるために戻ってきた。都市部ではなく稚内で、稚内がそんな好きかと言われればそうでもなかった、ただ、戻ってやった方がよさそうな感じがした

⑧宗谷地域でも購買力が高い地域もある、収入が多く生活コストがかからない

⑨地域貢献を理由に宗谷地域に戻ってきたい、というアンケート回答もある、こういう高校生と話を聞いたりする機会があれば

⑩飲食可能なスペースが欲しいという高校生の声が多くある。苫小牧にパブリックスペース（市民文化ホール）があり、そこで多くの地元の高校生が勉強しているが、まさにそれでいいと思う。飲食費用が掛かるスペースでは高校生は毎日行けない

⑪ IJターンを活性化するのであれば、住居に関する支援（住宅修繕、住宅提供等）を行政が率先してやる必要があるのではないか

⑫UIJターンのために、外に出た人、外にいる人にどの様に声を届けるか

⑬人を引き込む取り組みは全国イベント（東京）でやっても埋もれてしまう、人を呼び込むためには、地域の人達や環境に引っ張られて来てくれる、ここを如何に発信していくかが重要

⑭地域で活躍する人や移住者の方がなぜ宗谷地域で楽しく過ごしているのか、それを高校生に知ってもらう取組があればよい。移住者がどの様な想いで宗谷地域を選び、どの様な仕事や暮らしを実現しているのかを伝えてもらうことも有効

⑮進学や就職で宗谷地域を離れた後も、地域で活躍する魅力的な人たちの存在を思い出してもらえることが、将来的なUターンにつながる重要な要素ではないか

⑯人を引き込むための取組は多くあっても発展しない、継続的に一つの取組を積み重ねていくことが重要、また、その取組を地域の大人たちも理解し共通認識として持ってもらうことが結果的に効果がでてくる

意見投稿はコチラ！

QRコードは
シンポジウム
当日に共有予定

「Slido」アクセスコード
「当日共有予定」

SoyaLabo10ミーティング
Bグループ参加者



シンガーソングライター・稚内観光大使
TEPPEN MUSIC FES 実行委員長

エビナ　マスジ

2001年に稚内出身の兄弟ユニット『SE-NO』を弟 蝦名摩守俊 氏と共に結成。北海道を中心に精力的に活動し、CMやニュース番組のエンディングテーマなどを担当。実家の電器店を音楽ホールに改装した「えびなイベントホール」の運営・企画を担当。本年9月19日には令和7年度の高校生アンケートの結果に背中を押され、稚内では初の野外音楽フェスである「TEPPEN MUSIC FES」を主催。



株式会社シリ代表取締役
CHICO GARAGE経営

張間（はりま）　綾（あや）

函館市出身。リゾートバイトで利尻島と縁を持ち、島内で出会った夫が町職員であったことから利尻島に移住。
夫の役場退職後、沓形港近くに利尻島初のオリジナルアパレル雑貨店「CHICO GARAGE」を開業。店舗販売に加え、オンラインショップも開設し、デザイン及び商品開発のサポートも行う。
YouTubeチャンネル「あやぱんの利尻島生活」も運営しており、インフルエンサーとして利尻島の魅力を発信する一面も持つ。



5R Store 代表

三浦（みうら）　めぐみ

札幌市出身。礼文島にて昆布店・ハンドメイド雑貨店である「5Rstore」を経営。漁師である夫と海産物の加工・保存を行う傍ら、流木漂流物などを活用してハンドメイド作品を制作している。
また、島のマルシェである“GOOD THINGS MARKET REBUN”の主催メンバーであるほか、礼文小学校に穴あき貝のキーホルダー作り講師として招聘されるなど、活動は多岐に渡る。



(株)谷金物商事 代表取締役
てっぺん塾 塾長　オレンジ通り商店街振興組合理事長

本山（もとやま）　哲司（てつじ）

稚内市出身。本業の金物屋の他、オレンジ通り商店街振興組合の理事長として、オレンジ通りの昼間の賑わい創出、飲食店の人手不足の解消、新規参入者への支援などを通して、商店街全体の活性化に取り組む。また、稚内信金の若手経営者の会「てっぺん塾」では塾長として、高校生との意見交換会にも参加。

R8_SoyaLabo10ミーティング意見一覧《Bグループ》

①今年９月１９日にTEPPEN MUSIC FES（野外音楽フェス）を開催した、昨年度のSoyaLabo10の高校生アンケートで地域を盛り上げるために高校生が欲しいイベントで「音楽フェス」という声が一番大きかったことが開催のきっかけのひとつとなった、高校生には若者の声が届いたと思ってもらいたい

②宗谷地域のバンドによる選抜イベントもやってみたい、優勝バンドには来年のTEPPEN MUSIC FESにもでてもらいたい

③高校生アンケートを見るとどうせ宗谷地域だからといってあきらめている声も多くみられる。今いる大人たちはあきらめてはだめだと思う、それぞれの得意分野でできることを見つけていければいい

④自分も一度道外に住んでみてて気づいた地元のいい部分もある

⑤若い人にはどんどん出て行ってほしい、その代わり戻ってきてほしい、外での経験をぜひ宗谷地域で活かしてほしい、戻ってきてもらうためには高校生にあいつらなんか頑張っていると思ってもらうことが必要

⑥島の問題を少しでも知ってもらうためにミーティングに参加している

⑦島外から来た若者の中には島に魅力を感じ定住を希望する人もいるが、社宅や住居の不足により島を離れざるを得ないケースがあり、地域として受け入れ切れていない現状に悔しさを感じる

⑧飲食があれば人も集まる、島でマルシェをやっている、音楽と食がないと人がなかなか来てくれない、島ではコミュニティの場があまりない

⑨お祭りは地元の力が反映されたもの、石川県の金沢市では祭りのために1週間休む人もいるほど地域に根付いている、宗谷地域でも歴史や文化と結び付けた高校生神輿のような取組があれば、若者の地元への愛着醸成につながるのではないか、歴史学習とセットにすることで、授業の一環として参加しやすくなると思う

⑩高校生の意見で街全体で「逃走中（TV番組）」をできないかとの声もあった

⑪大人が楽しんでいる姿を見てもらう必要がある。

⑫宗谷地域を好きになってもらうためには、地域の大人が頑張っている姿を見てもらう必要がある、そのためには高校生も輪に入れないと

⑬大人だけでやるな、高校ではカリキュラムがあるので、一緒に何かやるのであれば高校には１年前から伝えなければ

⑭高校生からは勉強する場所がないという声も多い、汽車を待つまでの場所もない

⑮宗谷地域のいろいろな地域、いろいろな分野で活躍する人たちが集まって話していくことは重要、高校生に宗谷地域でこんなに頑張っている大人がいることを知ってもらいたい。

⑯アンケートだけではなく高校生に直接聞いて見たいことがたくさんある来年はSoyaLabo10ミーティングに高校生も参加してもらいたい

意見投稿はコチラ！

QRコードは
シンポジウム
当日に共有予定

「Slido」アクセスコード
「当日共有予定」

SoyaLabo10ミーティング
Cグループ参加者



株式会社SEAS代表取締役
一社）みどりスポーツクラブわっかない理事長　木村（きむら）　亘（わたる）

稚内市出身。創業30周年を迎えるスノーボードショップである、「SEAMORE」を運営し、スクール事業や地域密着型の選手育成に取り組む。現在は大沼野鳥観察館などの市の観光施設や坂の下海水浴場などの屋外施設の管理・運営に加え、カヌーツアーや屋外サウナの体験事業も展開。スポーツと観光をつなぎ、アスリートのセカンドキャリア創出にも取り組んでいる。



道北ガイドサービス
サウダージ 代表　倉（くら）　悠介（ゆうすけ）

稚内市出身。道内の大学を卒業後、10年間フェリー会社で勤務。
退職後、同社OBの西浦氏とともにサウダージを旗揚げし、代表に就任。
現在は様々なガイドツアーを催行しており、直近では管内学芸員の協力を得て稚内開建のHPにて提供しているサービス『宗谷遺産アーカイブズ』を活用したガイドサービスを計画している。



枝幸町観光協会 次長
えさし遊び場プロジェクト 代表　重清（しげきよ）　志穂（しほ）

北見市出身。札幌にて司会業を経て、結婚を機に2016年に枝幸に移住。
現在は枝幸町観光協会の次長として、町内イベントの企画運営を中心に、SNS発信など町の観光PR業務を担う。
町内の公園にある遊具が老朽化していることに着目し、改善や更新を考える「えさし遊び場プロジェクト」や、町内の有志数名と「バリアフリーおもちゃ博」を枝幸で開催するなど「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組も数多く行っている。



ポラリス・ネイチャーガイズ＆
コンサルタンツ 代表　嶋崎（しまざき）　暁啓（としひろ）

滝川市生まれ、神奈川県育ち。大学時代に訪れたサロベツの雄大な自然と地域の温かい人々に魅了され、卒業後に移住。サロベツの自然系NPO法人の事務局長としてサロベツ湿原センターの開館や運営に携わり、2022年に独立。現在は豊富町を拠点に、地域の自然に精通したガイド歴15年以上のプロ・ネイチャーガイドとして活躍。子供達への環境教育や動植物調査にも長年携わり、幅広い専門知識、経験を持つ。

R8_SoyaLabo10ミーティング意見一覧《Cグループ》

①地域外にでるにしても地域をしっかり知ったうえで出ていくことが重要

②一度は都市部で働く経験を積み、その中で宗谷地域の良さや課題を客観的に見つめ直すことも大切ではないか

③自分で知識を、昔こんなことがあったという歴史だけでは浅い、若い人に自分の専門分野である「歴史」を伝えていかなければと思う

④湿原センターに高校生がガイドボランティアで来てくれる、１年生はモジモジしているが、2、3年生になればしっかりしてくる、接客業に目覚めてホテルに就職した学生もいる、地域外の人に褒められて初めて地元の良さを認識する

⑤宗谷地域は早い時期に進路を決めなければならないかもしれない、都市部だと大学後半で決めればという感じもあるのではないか

⑥地元でやりたい仕事がない、ビジョンが持ちづらい、その結果、出ていくという選択肢になると思う、地元に何があって、何がないか、でもこんなことができるということを大人が伝えなければ、今のうちに種まきしないと間に合わない

⑦地域の大人との繋がりは、若者が将来地元を離れても「いつか帰ってきたい」と思うきっかけとなり、たとえ戻らなくても地域に関わり続けたいという意識の醸成につながる

⑧高校生が地域に関わってもらうには、企画段階から一緒に考えることが重要、地域の強みを活かして価値を創出するプロセスに参加することで、地域の魅力や可能性への理解が深まる、若者には得意分野であるSNSで協力してもらう

⑨子供たちをどこに連れて行けば遊べるか、情報が少ない、札幌、旭川だけでなく宗谷地域を向いてもらえればと思って自分でSNSの発信をしている

⑩SNSも戦略を考えないと見てもらえれない時代、宗谷地域に関するショート・リール動画を高校生から大人が習うという視点が必要ではないか、大人が宗谷地域の極上の素材を提供して、それを高校生や大学生に動画作成をしてもらう

⑪観光ガイドの客層として若者を取り込みたいが、そのために若者の視点やアイデアを活かしたいが、事業者単独では高校との接点が少ないので難しい

⑫高校生とのつながりを築くためには、高校との連携が重要、学校の先生方にもラボテンミーティングに参加していただき、地域には多くの魅力的で素晴らしい人材がいることを知ってもらう機会があればよいのではないか

⑬高校の先生も生徒も忙しい

⑭宗谷地域は涼しい地域、自然の利を活用して事業ができれば、スポーツ合宿ももっと増えてもいいが宿泊施設も少なく伸び悩んでいる

⑮若者が意欲的に関われる実践的な取組が必要、地域をよく知てもらうためにも高校生も参加できるアイデアコンテストやビジネスコンテストの機会があってもよいのではないか

意見投稿はコチラ！

QRコードは
シンポジウム
当日に共有予定

「Slido」アクセスコード
「当日共有予定」

Round 2　SoyaLabo10ミーティングの意見紹介

～ みんなで考える魅力的な宗谷の地域づくり ～

スクリーンに『SoyaLabo10ミーティング』において提出された意見を表示します。 この後の、パネルディスカッションでパネリスト方から意見が紹介されます。

・共感する意見、・気になった意見

・魅力的な宗谷の地域づくりに必要なこと　等

Slidoから自由にご意見を投稿ください！

いいね、と思う投稿にはグッドボタン！

現在、投稿募集中！

◆Slido（ｽﾗｲﾄﾞｰ）による投稿方法はこちら◆

●アクセス方法

QRコード読み取り、または、「Slido」に直接アクセスし「アクセスコード」を入力

QRコードは
シンポジウム
当日に共有予定

アクセスコード
『 当日共有予定 』

●投稿方法

上部の「Ｑ＆Ａ」（「投票」ではなく）を選択して自由に意見を投稿してください。

